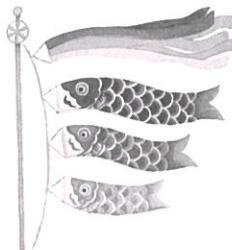


ふれあいひろば

松川町社会福祉協議会 TEL 0265-36-3778 編集・発行 ボランティア連絡会 編集部

*ボランティアだよりは皆様からご協力いただいた共同募金配分金で発行しています。



人と人との思いやり・・・



みんなでボランティア やりませんか？

ボランティア連絡会 会長 竹内 恵美子



4月27日に行われた令和3年度総会の様子です。

5月に入り、お仕事、農作業にお忙しい毎日をお送りのことと思います。この度、佐々木孝子会長から引き継ぎ、会長をさせて頂く事となりました。

竹内恵美子と申します。私はおもちゃ図書館に参加させて頂いております。

興味を持った、ボランティアがありましたら、見学にいらして下さい。

福祉を考える会

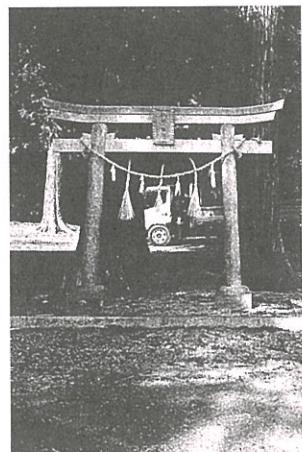
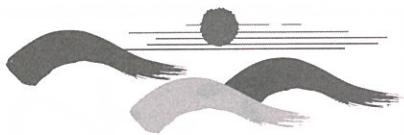
映像での活動報告を視聴

4月7日福祉を考える会の運営委員会で、3月にチャンネルユーで放映された『コロナ禍で見えてきたことと新しい活動』を視聴しました。

社協で行っている生活福祉資金の特例貸付やくらしの資金。町からは小中学校へのオンライン対応のための備品整備など、多様な新型コロナウィルス対策について、宮下町長出演でお話していただきました。グループ発表では、ぽっかぽかの会の、コロナ禍でも工夫しておせちづくりを行った様子、お子守りボランティアのいとし児会では、清流苑の桜の木周辺の草取り作業を行った事。地域で食材を循環させる会は、発足から今までの企業や人とのつながりによって活動が広がっている様子が発表されました。

発表を見た後グループに分かれて話し合うと、コロナ禍でも出来る事を発想の転換で探している事がすばらしいとか、映像で残す事やそれをみんなに知つてもうう事が大切など多くの感想が出されました。

福祉を考える会 会長 原 節子



「地域の文化と福祉の向上に寄与する」として1977年4月に、「はこべの会」が発足し、その会誌として「わが暮らしを見つめ、わが郷土を考えるために、仲間の雑誌」をテーマに掲げ、よりよい地域づくりのために「月刊はこべ」が生まれました。

この本は、会員は誰でも自由に書くことが出来るという「文化的な福祉の場」を提供しています。この4月で45周年を迎えるに至りましたが、実は世界でも稀なるメディアです。

- 会員の会費(とご寄附)で運営されており、会員減少で非常に厳しい財政状況となっており困っております。
- 月刊「はこべ」は会員からの投稿は全て掲載します。社会的肩書の無いごく普通の人の頑張りに注目したいと考えております。そのような情報をお待ちしております。投稿の義務はございません。

事務局 久保田 正明



令和4年4月から地域ボランティアセンターで、ボランティアコーディネーターをさせていただいています、佐々木彩乃と申します。町内ではたくさんのボランティアさんが活躍していく中、そんな方に松里町は支えられているのだと改めて実感する毎日です。

ボランティアさんが少しでも活動しやすくなるように、そしてボランティアさんの助けを必要としている方との架け橋となるよう、フレッシュな気持ちを忘れずに手伝いをさせていただければと思います。

この春近所の桜が、気が付いたらきれいに咲いていて「あれ? いつの間に?」と思っていたら、今度は気が付いた時には散り始めてしまいました。バタバタしているとゆとりとお花を見る時間が減ってしまうのが残念です。心にゆとりを持ち、季節の流れや日常の中での変化などを敏感に感じ取れるようになりたいものです。桜だけでなく、今年は御柱祭に飯田のお練り祭り、善光寺の御開帳など盛りだくさんの春でしたね。皆さんはどういう春を過ごしましたか?

